



RUBLIC GUIDE

広島修道大学
教学センター

2024



はじめに

文部科学省が掲げる「**教学マネジメント指針**」では、教育成果の把握を適切に行うためには、まず成績評価の信頼性を確保する必要があると述べられています。成績評価に関する情報は適切にシラバス内に記載するとともに、また各科目における成績評価に関する考え方を明確に提示することも重要です。そのためにはルーブリックなどを通じて、全学的な成績評価の基準を策定するといった取り組みが必要となります。

ルーブリックとは、「**米国で開発された学修評価の基準の作成方法であり、評価水準である『尺度』を満たした場合の『特徴の記述』で構成される**」（中央教育委審議会答申、2012）と定義されています。

本国でルーブリックが用いられるようになったきっかけは、2008年に実施された中央教育審議会へとさかのぼります。ここで、「**学士力**」の提示と学士課程修了段階の質保証が求められるようになりました。さらに2012年の中央教育審議会にて、学修の成果を把握する方策のひとつとしてルーブリックが取り上げられて、これを活用したり、研究・開発したりすることの重要性が指摘されました。その後、学修成果以下の可視化の点においても、大学教育でのルーブリックの活用は強く求められているのが現状です。（星、越川、2020）

具体的にどのような効果がルーブリックには期待されるのでしょうか。ルーブリックに関する論文によると、その効果について以下のように述べられています。

学生に各々の学習成果を明確に示すことができ、学生に求められるパフォーマンスのレベルを、下位の到達レベルから、より上位の到達レベルへと導くことで教育の質の向上が可能となる。（石垣、2016）

この『**ルーブリックガイド**』では、ルーブリックの使用方法や作成方法について簡略に説明しつつ、授業ルーブリックの作り方と、プレゼンテーションとレポートのコモン・ルーブリックを例示いたします。成績評価のご参考にしてください。

目次

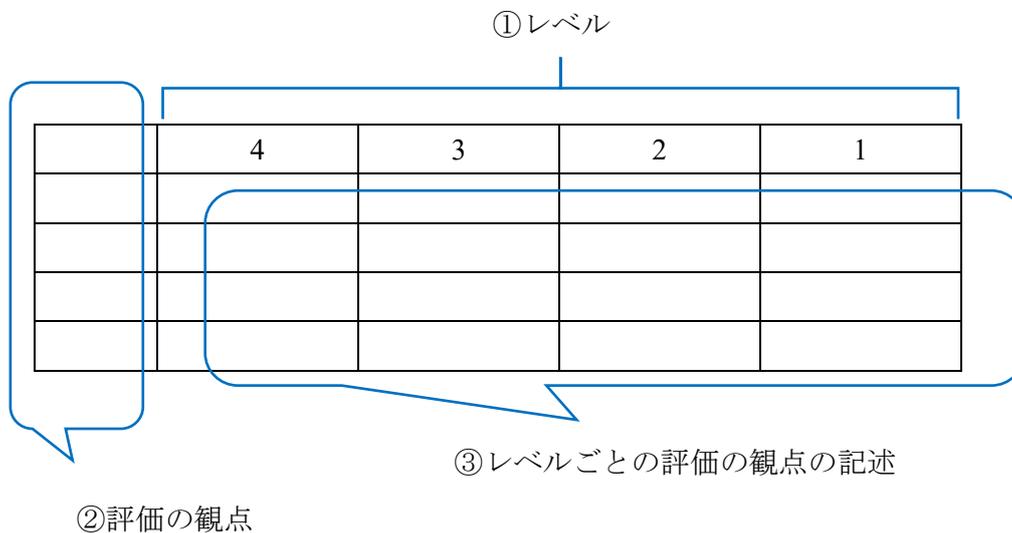
 ルーブリックとは.....	3
 ルーブリックのおおまかな種類.....	4
 ルーブリックを活用するタイミングと活用方法.....	5
 ルーブリックの作り方.....	5
 【授業ルーブリックの例】.....	9
 【プレゼンテーションのコモン・ルーブリック】.....	10
 【レポートのコモン・ルーブリック】.....	11
文献リスト.....	12



ルーブリックとは

ルーブリックとは、ある課題をいくつかの構成要素に分けて、その要素ごとの評価基準を満たすレベルについて記述したものです（ステューブンス／レビ、2014）。ルーブリックは様々な課題や学修成果の評価に活用することができます。主に以下の3点から構成されます。

- ①レベル
- ②評価の観点
- ③レベルごとの評価の観点の記述



ルーブリックを活用することで、以下のようなメリットなどが見込まれるといわれます。

- ・授業の達成水準、受講者の学修成果等の明確化
- ・数値化の難しいパフォーマンス等の定性的な評価
- ・評価者と被評価者の認識共有
- ・複数の評価者による評価の標準化
- ・フィードバックの容易化
- ・学習環境の平等化



ルーブリックのおおまかな種類

ルーブリックにはいくつかの種類があります。

種類	評価の対象
課題ルーブリック	様々な課題の成果をはかる
授業ルーブリック	授業科目の目標達成度をはかる
カリキュラムルーブリック	学位プログラム全体を通した学修目標の達成度をはかる

以下、それぞれの説明です。

【課題ルーブリック】

プレゼンテーションや、レポートなどの課題に対して活用できます。

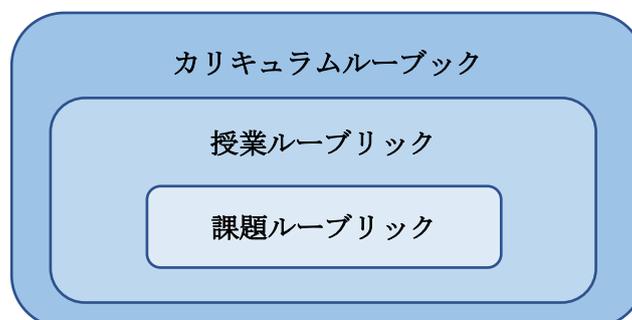
【授業ルーブリック】

学生がどのくらい各科目の到達目標へ達成したかをはかることができるルーブリックです。このルーブリックを複数教員が担当する同一科目に適用した場合、成績評価の平準化と教員間の成績評価に対する基準の共有が可能になります。

【カリキュラムルーブリック】

「卒業認定・学位授与の方針」(DP)に沿って、求められる資質と能力の充足のレベルをはかるためのルーブリックです。卒業認定時にはかることもできますが、学年毎に実施して年度毎の達成度をはかることも可能です。DPの充足度を教員と学生の双方が把握できるようになり、また学修成果の可視化に関して効果が見込まれます。

それぞれがどのような評価の対象を包括しているのかについては、下のような図で表されることがあります。





ループリックを活用するタイミングと活用方法

【タイミング】

ループリックをより効果的に活用する手段として、実際に評価に用いる前に、学生に配布するなどして評価の基準を認識させておくという方法があります。加点や減点の対象を事前に知っておくことにより、学生は自らの課題やパフォーマンスについて自己省察しつつ取り組むことができるようになります。

【活用方法】

課題の成果や DP の充足度を測る以外の使い方として、成績のフィードバックに用いることもできます。課題に対して、該当する評価部分に印しをつけたループリックを学生に渡すことで、学生は自身のレベルや問題点について知ることが可能となります。

もしくは学生自身が自己採点したループリックを課題とともに提出させると、教員は学生の自己評価を知ることができるため、それを指導へ活用するという方法もあります。

教員の採点済みループリック

	3	2	1
...	○		
...		○	
...		○	

フィードバック



成果と能力
を認識



学生



ループリックの作り方

授業の目標到達度をはかる授業ループリックを例に挙げて、ループリックの作り方を簡

単に説明します。

① レベルを設定します (青色のゾーン)

横軸であるレベルは評価尺度です。レベルを増やすほど、作成や採点に手間がかかるので、3～5の間で設定すると使いやすくなります。例えば、成績をAAからD(X)のレターグレードで学生に提示する場合、レベルを5段階に分けるとそれぞれのレベルの基準のイメージが容易になります。

評価の観点	5 (AA)	4 (A)	3 (B)	2 (C)	1 (D)

② 評価の観点を設定します (緑色のゾーン)

「評価の観点」の欄には、学生に求める評価の基準を記入します。授業ルーブリックの場合は、科目ごとにシラバスに記載した到達目標があるため、こちらを要約して記載します。この欄は評価のポイントを分かりやすく提示するためのものであり、必要がなければ省いても構いません。

例

シラバスに記載された到達目標が以下の場合、→【 】のように置き換えます。

- ① ルーブリックの成り立ちを理解して、他者に正しく説明できる
→【知識と表現力】
- ② 自分で様々なルーブリックを作成できる
→【技術力】
- ③ ルーブリックの効果的な活用方法を知り、実践できる
→【応用力】

評価の観点	5 (AA)	4 (A)	3 (B)	2 (C)	1 (D)
知識と表現力					
技術力					
応用力					

その他の場合

【レポートルーブリック】

レポートに求める要素（内容の正確性、日本語の正しさ等）

【プレゼンテーションルーブリック】

プレゼンに求める要素（スライド、身振り、発話等）

【カリキュラムルーブリック】

DP の定める学修目標

③ レベルごとの評価の観点を記述します （オレンジ色のゾーン）

レベルを5段階に分けている場合は、最初に「レベル4」の欄にシラバスに記載している到達目標を記載します。この「レベル4」が、授業の到達目標を満たしている基準となります。

評価の観点	5 (AA)	4 (A)	3 (B)	2 (C)	1 (D)
知識と表現力		ルーブリックの成り立ちを理解して、他者に正しく説明できる			
技術		自分で様々なルーブリックを作成できる			
応用力		ルーブリックの効果的な活用方法を知り、実践できる			

次に、「レベル 2」の欄に、充分とはいえないものの最低限の到達目標を満たしている内容を記載します。

評価の観点	5 (AA)	4 (A)	3 (B)	2 (C)	1 (D)
知識と表現力		ループリックの成り立ちを理解して、他者に正しく説明できる		理解に若干の間違いがあり、説明が不十分である	
技術		自分で様々なループリックを作成できる		もっとも基本的なループリックを作成できる	
応用力		ループリックの効果的な活用方法を知り、実践できる		活用方法に誤解がある、または実践できない	

同様のやり方で残りの欄を埋めていきます。欄のイメージは、以下のようになります。

レベル 5	レベル 4	レベル 3	レベル 2	レベル 1
授業の到達目標を上回る	授業の到達目標を満たしている	レベル 3 と 1 の中間	最低限の到達目標を満たしている	最低限の到達目標に達していない

学生にフィードバックとして返却することを想定している場合は、できるだけ肯定的な表現を用いた方が学生のモチベーションに効果的に作用するといわれています。

例：「～にはさらに努力を要する」、「～を継続的に練習する必要がある」
「～すれば向上できる」、「～を再度学んだ方が良い」



【授業ルーブリックの例】

評価の 観点	5 (AA)	4 (A)	3 (B)	2 (C)	1 (D)
知識と 表現力	ルーブリックを完全に理解して、申し分のない説明ができる	ルーブリックの成り立ちを理解して、他者に正しく説明できる	理解か説明のどちらかに問題がある	理解に若干の間違いがあり、説明が不十分である	まったく理解できておらず、説明できない
技術	多種多様なルーブリックを正確に素早く作成できる	自分で様々なルーブリックを作成できる	ルーブリックは作成できるがバリエーションが乏しい	もっとも基本的なルーブリックを作成できる	ルーブリックがまったく作れない
応用力	ルーブリックの活用方法の知識が深く、最も効果的に実践できる	ルーブリックの効果的な活用方法を知り、実践できる	活用方法に関する知識か実践のどちらかに問題がある	活用方法に誤解があるが、なんとか実践することができる	活用方法に関する知識がなく、まったく実践できない



【プレゼンテーションのコモン・ルーブリック】

こちらはテンプレートとしてのコモン・ルーブリックです。使いやすいように適宜カスタマイズしてご使用いただけましたら幸いです。

評価の観点	5 (AA)	4 (A)	3 (B)	2 (C)	1 (D)
テーマと要点	テーマと要点のまとまりが極めて明確に主張されている	テーマが的確であり、要点がまとまっている	テーマか要点のまとまりのどちらかに問題がある	テーマと要点のまとまりに関して両方に問題がある	テーマに沿っておらず、また要点が把握できない
スライド	情報量と視覚的な分かりやすさのバランスが良く、非の打ち所がない	情報量が的確であり、視覚的に分かりやすく示されている	情報量か視覚的な分かりやすさのどちらかに問題がある	情報量と視覚的な分かりやすさの両方に問題がある	情報量と視覚的な分かりやすさの両方に重大な問題がある
全体の構成	全体が極めてスムーズで、最初から終わりまで良く順序立てられていた	全体を通じて破綻なく、秩序だった構成である	一部破綻している部分もあったが、おおむね秩序だった	全体の構成が不透明であり、秩序だっているとはいえない	全体の構成が完全に破綻している
態度 ・発話 ・視線／身振り ・スピード	3点とも優れている	3点とも問題ない	1点に問題がある／全体的に軽微な問題がある	2点に問題がある／全体的に問題がある	全体的に大きな問題がある



【レポートのコモン・ルーブリック】

レポートに関するテンプレートとしてのコモン・ルーブリックです。こちらにも適宜カスタマイズしてご使用ください。

評価の観点	5 (AA)	4 (A)	3 (B)	2 (C)	1 (D)
課題との関連	課題との関連が極めて明確であり、非の打ち所がない	課題に対して的確かつ網羅的に答えている	課題に対して一通り答えている	課題に対する答えが不十分である	課題と関係のない答えをしている
論理性	全体を通じて非常に論理的で、わずかな破綻もない	結論に至るまで論理的に一貫している	論理的に整ってはいるものの、改善できる	論理的に整理されておらず、論旨が曖昧である	全体として論理的に破綻している
参考資料	豊富な資料の中から適切な箇所を極めて的確に引用したり、参照したりすることができる	資料の選択が的確かつ十分であり、正しく引用できている	妥当な資料が選ばれており、引用にも問題ない	資料が示されていないか、引用方法に間違いがある	資料を正しく用いていない
文章 ・段落 ・句読点 ・主語と述語 ・文体の統一	的確かつ優れた日本語表現が用いられた文章であり、読みやすく誤りもない	4項目とも問題なく、正しい文章で書かれている	4項目中、1つの項目に問題がある／全体的に軽微な問題がある	4項目中、2つの項目に問題がある／全体的に問題がある	4項目中、3つ以上の項目に問題がある／文章に関して全体的に重大な問題がある

文献リスト

【引用文献】

石垣明子：「大学におけるルーブリック評価の開発—医療人文学科における社会人基礎力を涵養するルーブリッカー」、『つくば国際大学 研究紀要』、No. 22、27-39 頁、2016 年、27 頁。

星裕／越川茂樹：「大学教育においてルーブリックを自己評価に活用した影響と課題」、『教師学研究』、23 (1)、21-31 頁、2020 年、21 頁。

ダネル・スティーブンス／アントニア・レビ（井上他訳）：『大学教員のためのルーブリック評価入門』、玉川大学出版部、2014 年、2 頁。

【参考文献】

佐藤浩章編：『大学教員のための授業方法とデザイン』、玉川大学出版部、2010 年。

高浦勝義：『絶対評価とルーブリックの理論と実践』、黎明書房、2004 年。

関西大学「ルーブリックの使い方ガイド」

横浜国立大学「ルーブリック作成マニュアル」

龍谷大学「ルーブリック作成ガイドブック」

早稲田大学「ルーブリック作成ガイド」

摂南大学 HP (PDF): https://www.jstage.jst.go.jp/article/faruawpsj/51/2/51_143/_pdf

広島修道大学

教学センター

〒731-3195

広島県広島市安佐南区大塚東 1-1-1

発行日／2023 年 12 月 13 日